

令和5年上半期火災・救急概況（速報）

～令和5年1月1日から令和5年6月30日まで～

① 全火災の出火原因は「放火(疑いを含む)」が第1位

住宅火災では5年連続「こんろ」が最多、火災による死者は7割が高齢者

- 全火災件数は378件で、前年同期と比べて42件増加し、出火原因は「放火(疑いを含む)」が68件で第1位となりました。住宅火災件数は140件で、前年同期と比べて10件減少し、出火原因は「こんろ」が32件で5年連続最多となりました。
- 火災による死者は7人で、そのうち5人（7割）が高齢者の方となりました。

② 救急出場件数、搬送人員ともに、過去最多を記録した昨年を上回るペースで増加

- 救急出場件数は116,999件で、過去最多を記録した前年同期と比べて3,772件（3.3%）増加しました。
- 搬送人員は94,436人で、過去最多を記録した前年同期と比べて2,604人（2.8%）増加しました。搬送人員の割合を年代別にみると高齢者が56.4%、傷病程度別にみると中等症以上が52.4%となりました。
- 特に7歳未満の「新生・乳幼児」は7,971人で、前年同期と比べて2,045人（34.5%）増加しました。
- 発熱のある方の搬送人員が急増し、6月は前年同月と比べて1,335人（24.4%）増加しました。

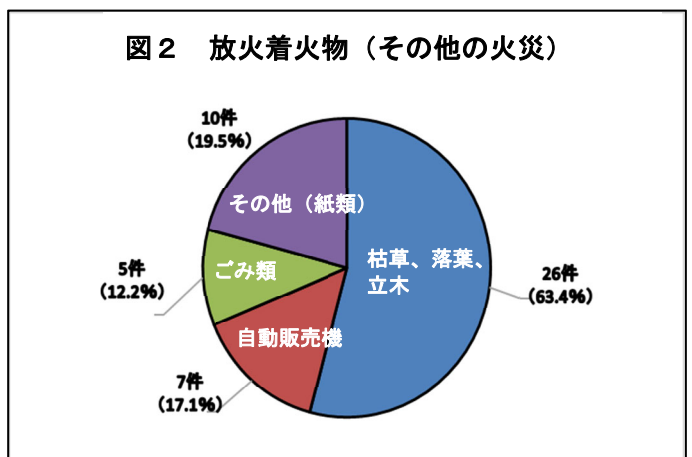
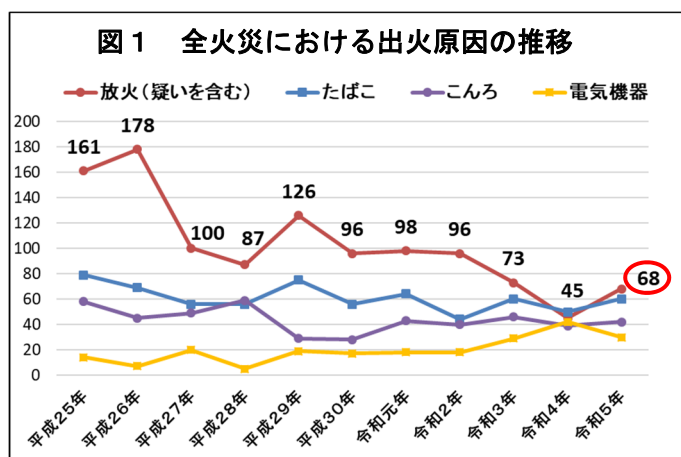
1 火災の概況（詳細は、別添資料1参照）

(1) 火災件数

全火災件数は378件で、前年と比べて42件増加していますが、過去10年平均よりも32件少ない件数となりました。このうち、住宅火災件数は140件で、前年と比べて10件減少しました。

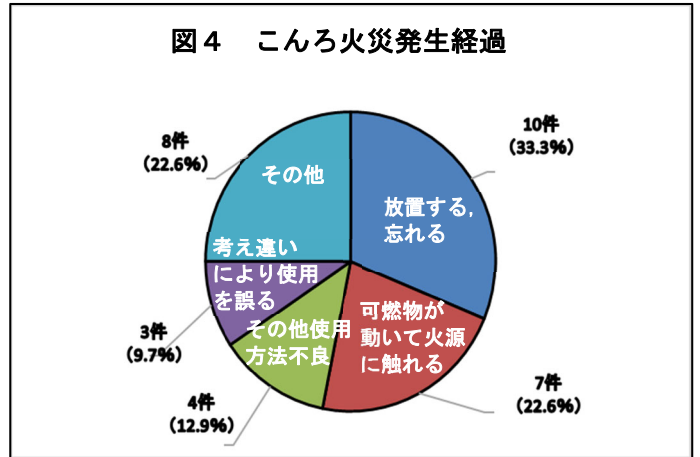
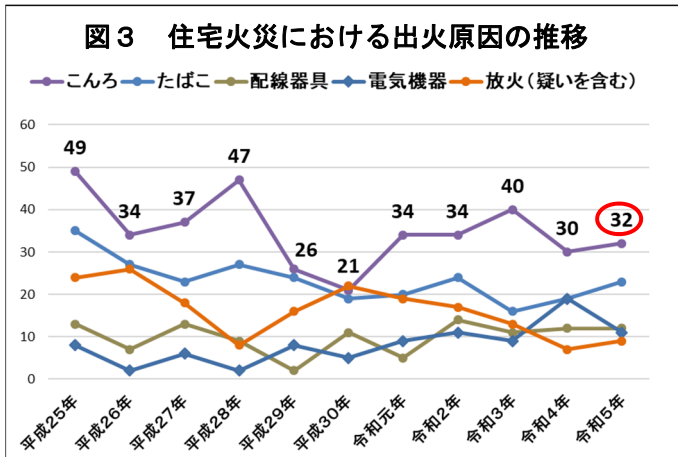
(2) 主な出火原因【図1】【図2】

- 全火災の出火原因第1位は、「放火(疑いを含む)」68件（前年同期比23件増）で、次いで「たばこ」60件（前年同期比10件増）、「こんろ」42件（前年同期比3件増）の順となりました。減少傾向にあった「放火(疑いを含む)」が再び増加しています。
- 「放火(疑いを含む)」を原因とする火災は、その他の火災（屋外で発生したごみ、立木、雑草などの火災）が48件（前年同期比20件増）で、そのうち26件が枯草、落葉、立木、7件が自動販売機、5件がごみ類に火をつけられたものとなりました。



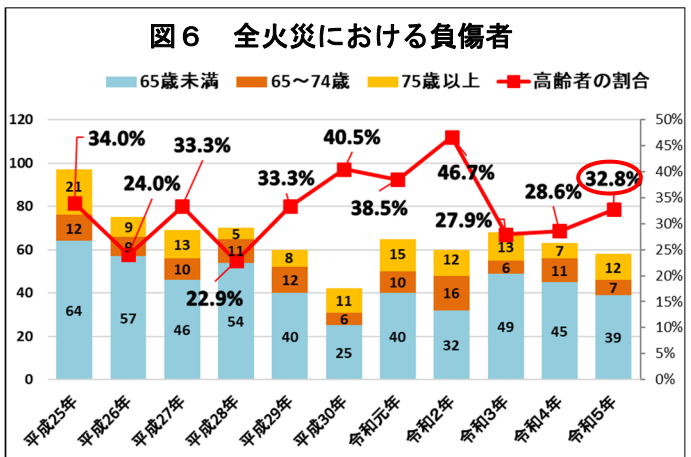
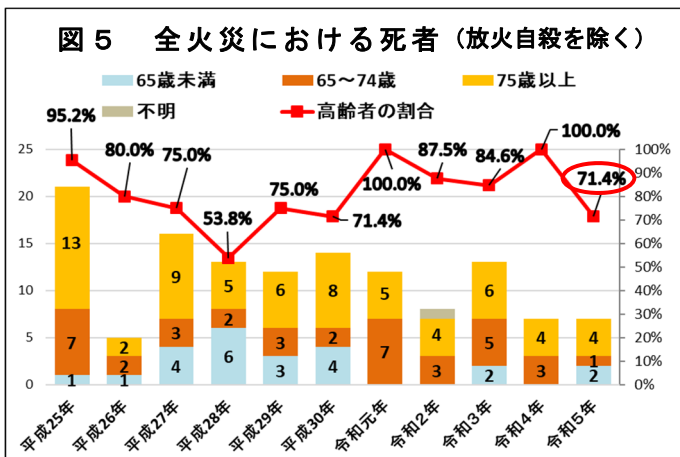
(3) 住宅火災の主な出火原因【図3】【図4】

- 住宅火災の出火原因第1位は、5年連続「こんろ」32件で、次いで「たばこ」23件、「配線器具」12件の順となりました。
- 住宅火災で「こんろ」から出火した火災の経過は、「放置する, 忘れる」が10件、「可燃物が動いて火源に触れる」が7件、「その他使用方法不良（清掃の維持管理不適等）」が4件、「考え違いにより使用を誤る（電気ケトルを火にかける等）」が3件となりました。



(4) 火災による死者・負傷者【図5】【図6】

- 放火自殺を除く全火災の死者は7人（前年同期と同数）で、全員が住宅火災でお亡くなりになりました。そのうち、5人（71.4%）が65歳以上の高齢者の方でした。
- 火災による負傷者は58人（前年同期比5人減）で、41人（70.7%）が住宅火災で負傷しました。負傷者のうち19人（32.8%）が65歳以上の高齢者の方でした。



「よこはま防災 e-パーク」で防火対策について学びましょう。

いつでも、どこでも、オンラインで身近に防災を学ぶことができる「よこはま防災 e-パーク」では、住宅火災の出火原因で多い、「こんろ」や「たばこ」などの防火対策のほか、救急、地震、風水害など、いざという時に備える幅広い知識を学ぶことができます。

また、子どもたちが楽しみながら防災を学べるよう、一般財団法人ポケモン・ウィズ・ユー財団の制作した「ポケモンぼうさいきょうしつクイズ」と連携しています。全問正解すると、ポケモンの修了証を「GET」することができます。

火災などの災害から大切な命と財産を守るため、「よこはま防災 e-パーク」で学んで、いざという時に備えましょう。

いつでも・どこでも・身近に防災を学ぼう！ <よこはま防災 e-パーク>

よこはま防災e-パーク

一般 子ども 地域防災 事業所 /スマートフォン

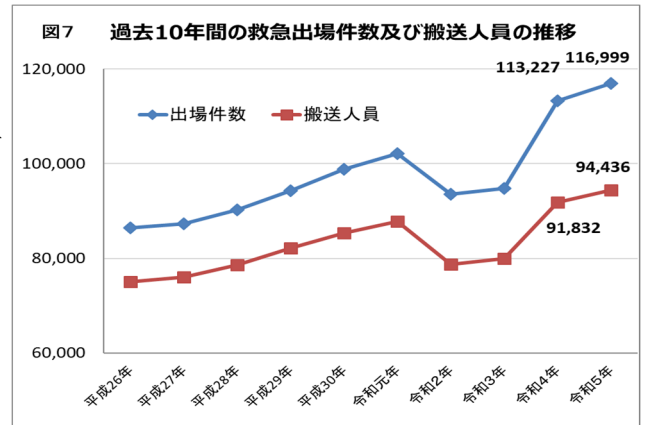
<火災 救急 地震 風水害>



2 救急の概況（詳細は、別添資料2参照）

(1) 救急出場件数及び搬送人員【図7】

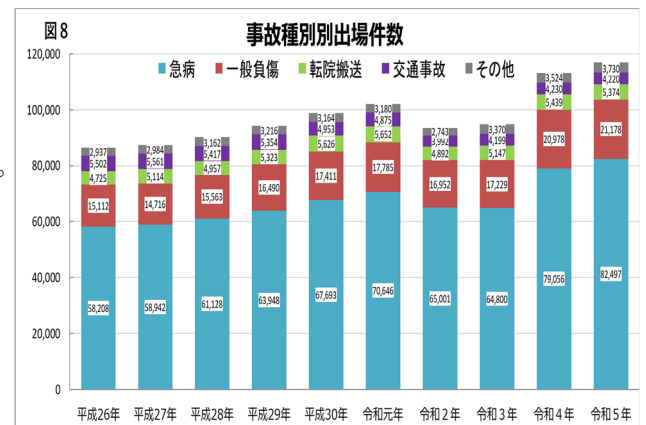
- 救急出場件数は116,999件（前年同期比3,772件増）で、過去最多を記録しました。
- 搬送人員は94,436人（同2,604人増）で、過去最多を記録しました。
- 1日あたりの平均救急出場件数は646件で、前年同期の626件と比べて20件増加しました。
- 2分14秒に1回救急車が出場していることとなります（前年同期は2分18秒に1回）。



(2) 事故種別別出場件数【図8】

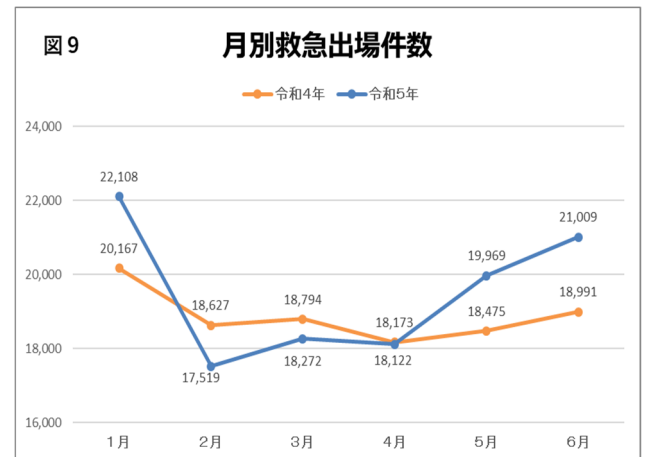
- 事故種別ごとの救急出場件数は、「急病」82,497件（前年同期比3,441件増）、「一般負傷※」21,178件（同200件増）、「転院搬送」5,374件（同65件減）、「交通事故」4,220件（同10件減）の順となりました。
- 全救急出場件数のうち、「急病」が70.5%、「一般負傷」が18.1%となりました。

※ 「一般負傷」とは、「労働災害や運動競技等に分類されない不慮の事故」をいい、住宅内での転倒・転落、やけど、熱中症等が該当します。



(3) 月別出場件数【図9】

- 1月の救急出場件数は22,108件（前年同月比1,941件増）で、上半期で最多となりました。
- 1月の1日あたりの平均救急出場件数は713件で、前年同月の651件と比べて62件増加しました。

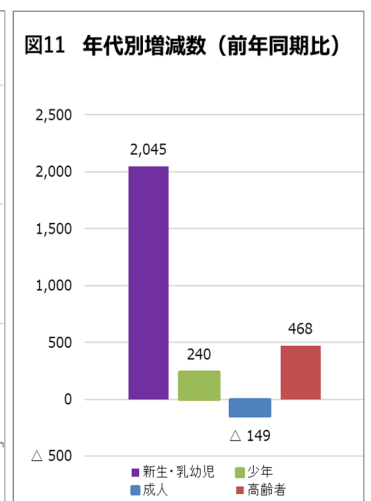
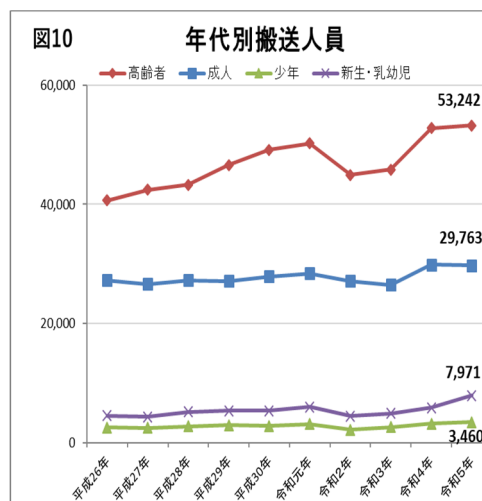


(4) 行政区別出場件数

- 前年同期と比べて泉区以外の全ての行政区で増加しました。
- 行政区別の救急出場件数は港北区（9,352件）、鶴見区（8,958件）、戸塚区（8,660件）の順となりました。

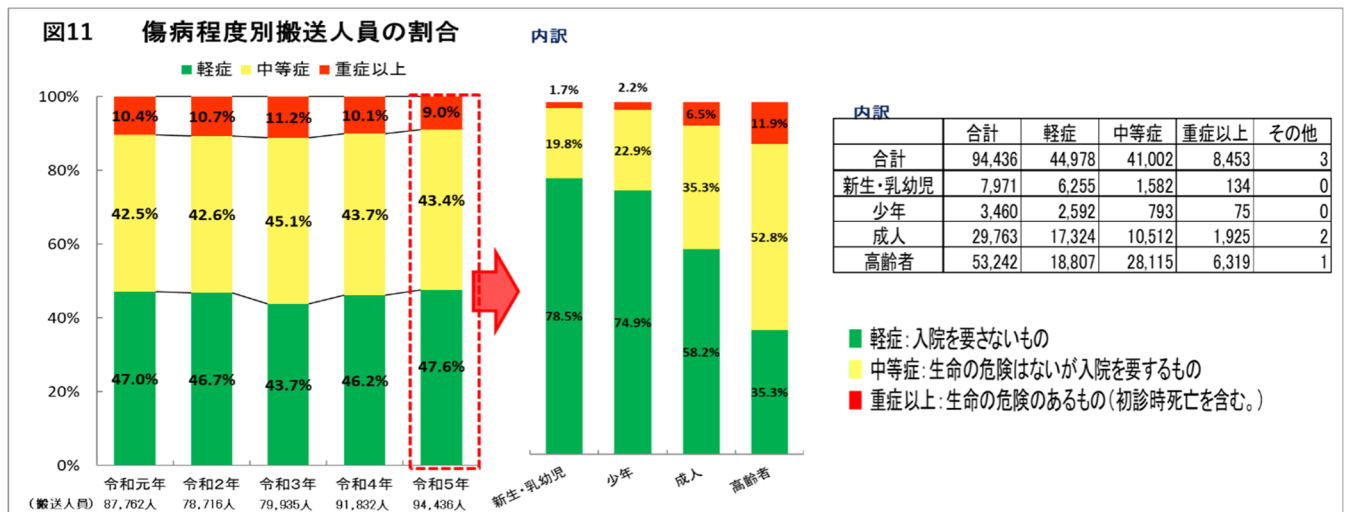
(5) 年代別搬送人員【図10】【図11】

- 年代別の搬送人員は、65歳以上の「高齢者」53,242人（56.4%）、18歳以上65歳未満の「成人」29,763人（31.5%）、7歳未満の「新生・乳幼児」7,971人（8.4%）、7歳以上18歳未満の「少年」3,460人（3.7%）の順となりました。
- 前年同期と比べて「新生・乳幼児」は2,045人（34.5%）増加しました。



(6) 傷病程度別搬送人員（医療機関初診時）【図11】

傷病程度別の搬送人員は、「軽症」44,978人（前年同期比2,551人増）、「中等症」41,002人（同857人増）、「重症以上」8,453人（同806人減）の順となり、「新生・乳幼児」及び「少年」では7割以上が軽症であるのに対して、「高齢者」では6割以上が入院を必要とする中等症及び重症以上となりました。

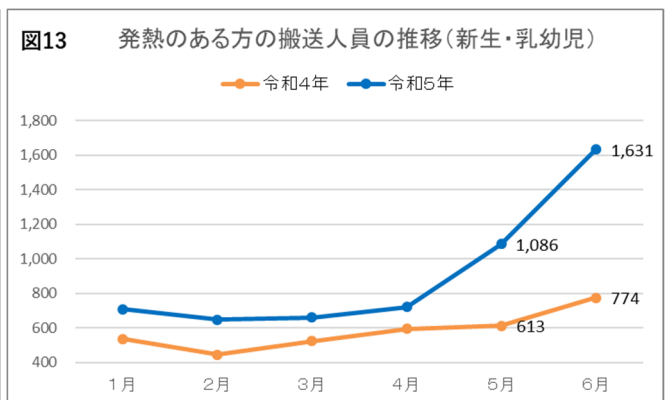
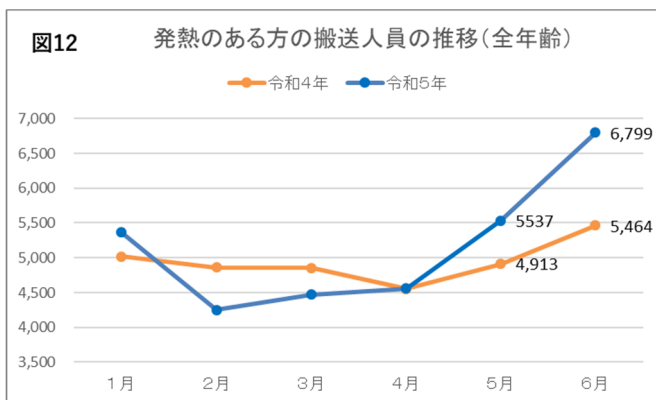


※ グラフ等の割合は小数第2位を四捨五入しているため、表中の合計が100%にならない場合があります。

発熱のある方の救急搬送が急増中！【図12】【図13】

発熱（体温 37.0℃以上）のある方の搬送人員をみると、6月は6,799人で、前年同月と比べて1,335人（24.4%）増加しました。

特に7歳未満の「新生・乳幼児」をみると、6月は1,631人で、前年同期と比べて857人（110.7%）増加しました。



熱中症は予防が大切です！

これから本格的な夏が始まります。

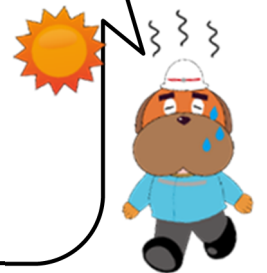
昨夏は6月の暑さ指数(WBGT)が31℃を超えた日に、熱中症の救急搬送が急増しました。

身体が暑さに慣れる前は特に注意が必要です。

こまめな水分補給や服装の工夫、昼夜を問わずエアコンや扇風機を使用するなど、熱中症に十分お気をつけください。



「熱中症警戒アラート」発表時は、特に注意しましょう。



横浜市消防局マスコットキャラクター ハマくん

お問合せ先

(火災に関すること) 消防局予防課長 宇多 範泰 Tel 045-334-6601
 (救急に関すること) 消防局救急課長 石黒 靖雄 Tel 045-334-6771

火災概況〈速報〉

1 火災種別・損害状況

単位：件

年別		令和5年	令和4年	前年比	過去10年間の平均	増△減
区分		(A)	(B)	(A) - (B)	(平成25年～令和4年) (C)	(A) - (C)
火災種別	全火災	378	336	42	410	△32
	建物火災	214	226	△12	242	△28
	住宅火災	140	150	△10	157	△17
	林野火災	-	-	-	-	-
	車両火災	42	33	9	30	12
	船舶火災	-	-	-	1	△1
	航空機火災	-	-	-	-	-
	その他の火災	122	77	45	137	△15
損害状況	焼損床面積(m ²)	4,031	3,096	935	4,090	△59
	死者(人)	7	8	△1	14	△7
	放火自殺者	-	1	△1	2	△2
	負傷者(人)	58	63	△5	67	△9
	住宅火災	2,434	2,305	129	2,478	△44
	死者(人)	7	6	1	12	△5
	放火自殺者	-	1	△1	1	△1
	負傷者(人)	41	51	△10	51	△10

備考 住宅火災の件数は建物火災の内数、住宅火災の損害状況は全火災の損害状況の内数 また、放火自殺者数は死者数の内数
過去10年間の平均の数値は小数点以下を四捨五入してあるので、合計と一致しない場合があります。

2 主な出火原因

単位：件

年別		令和5年	令和4年	前年比	過去10年間の平均	増△減
区分		(A)	(B)	(A) - (B)	(平成25年～令和4年) (C)	(A) - (C)
全火災	放火(疑いを含む)	68	45	23	106	△38
	たばこ	60	50	10	61	△1
	こんろ	42 (2)	39 (3)	3 (△1)	44 (4)	△2 (△2)
	電気機器	30 (30)	42 (42)	△12 (△12)	19 (19)	11 (11)
	配線器具	19 (19)	16 (16)	3 (3)	15 (15)	4 (4)
	上記以外の出火原因	159 (44)	144 (55)	15 (△11)	163 (49)	△4 (△5)
	計	378 (95)	336 (116)	42 (△21)	408 (87)	△30 (8)
住宅火災	こんろ	32 (2)	30 (3)	2 (△1)	35 (4)	△3 (△2)
	たばこ	23	19	4	23	-
	配線器具	12 (12)	12 (12)	-	10 (10)	2 (2)
	電気機器	11 (11)	19 (19)	△8 (△8)	8 (8)	3 (3)
	放火(疑いを含む)	9	7	2	17	△8
	上記以外の出火原因	53 (18)	63 (28)	△10 (△10)	64 (24)	△11 (△6)
	計	140 (43)	150 (62)	△10 (△19)	157 (46)	△17 (△3)

備考 ()内は電気起因する火災で各出火原因の内数

過去10年間の平均の数値は小数点以下を四捨五入してあるので、合計と一致しない場合があります。

3 行政区別火災発生状況

単位：件

年別		令和5年	令和4年	前年比	過去10年間の平均	増△減
区分		(A)	(B)	(A) - (B)	(平成25年～令和4年) (C)	(A) - (C)
行政区	鶴見区	31	24	7	37	△6
	神奈川区	28	27	1	25	3
	西区	19	18	1	17	2
	中区	39	28	11	37	2
	南区	25	14	11	25	-
	港南区	12	21	△9	23	△11
	保土ヶ谷区	14	19	△5	19	△5
	旭区	21	22	△1	27	△6
	磯子区	9	12	△3	14	△5
	金沢区	22	13	9	18	4
	港北区	42	29	13	37	5
	緑区	15	17	△2	19	△4
	青葉区	19	16	3	22	△3
	都筑区	15	11	4	20	△5
	戸塚区	28	35	△7	27	1
	栄区	7	12	△5	10	△3
	泉区	13	12	1	17	△4
	瀬谷区	19	6	13	18	1
合計	378	336	42	410	△32	

備考 過去10年間の平均の数値は小数点以下を四捨五入してあるので、合計と一致しない場合があります。

令和5年上半期の救急状況〈速報〉

1 救急出場件数

区分	令和5年	令和4年	増△減	増減率
救急出場件数	116,999	113,227	3,772	3.3%
1日あたりの件数	646	626	20	
出場率（何分何秒に1回）	2分14秒に1回	2分18秒に1回		

2 事故種別別救急出場件数

区分	令和5年		令和4年		前年比較		
	出場件数	構成比	出場件数	構成比	増△減	増減率	
合計	116,999	100.0%	113,227	100.0%	3,772	3.3%	
事故種別	急病	82,497	70.5%	79,056	69.8%	3,441	4.4%
	一般負傷	21,178	18.1%	20,978	18.5%	200	1.0%
	転院搬送	5,374	4.6%	5,439	4.8%	△65	△1.2%
	交通事故	4,220	3.6%	4,230	3.7%	△10	△0.2%
	その他	3,730	3.2%	3,524	3.1%	206	5.8%

3 傷病程度別搬送人員

区分	令和5年		令和4年		前年比較		
	搬送人員	構成比	搬送人員	構成比	増△減	増減率	
合計	94,436	100.0%	91,832	100.0%	2,604	2.8%	
程度	軽症	44,978	47.6%	42,427	46.2%	2,551	6.0%
	中等症	41,002	43.4%	40,145	43.7%	857	2.1%
	重症以上	8,453	9.0%	9,259	10.1%	△806	△8.7%
	その他	3	0.0%	1	0.0%	2	200.0%

4 年代別搬送人員

区分	令和5年		令和4年		前年比較		
	搬送人員	構成比	搬送人員	構成比	増△減	増減率	
合計	94,436	100.0%	91,832	100.0%	2,604	2.8%	
年代	高齢者	53,242	56.4%	52,774	57.5%	468	0.9%
	成人	29,763	31.5%	29,912	32.6%	△149	△0.5%
	少年	3,460	3.7%	3,220	3.5%	240	7.5%
	新生・乳幼児	7,971	8.4%	5,926	6.5%	2,045	34.5%

5 発生行政区別救急出場件数

区分	令和5年		令和4年		前年比較		
	出場件数	構成比	出場件数	構成比	増△減	増減率	
合計	116,999	100.0%	113,227	100.0%	3,772	3.3%	
行政区	鶴見	8,958	7.7%	8,442	7.5%	516	6.1%
	神奈川	7,296	6.2%	6,923	6.1%	373	5.4%
	西	4,853	4.1%	4,660	4.1%	193	4.1%
	中	8,540	7.3%	8,069	7.1%	471	5.8%
	南	7,235	6.2%	7,220	6.4%	15	0.2%
	港南	7,039	6.0%	6,715	5.9%	324	4.8%
	保土ヶ谷	6,314	5.4%	6,301	5.6%	13	0.2%
	旭	7,655	6.5%	7,535	6.7%	120	1.6%
	磯子	5,327	4.6%	5,174	4.6%	153	3.0%
	金沢	6,252	5.3%	6,040	5.3%	212	3.5%
	港北	9,352	8.0%	8,873	7.8%	479	5.4%
	緑	5,186	4.4%	5,088	4.5%	98	1.9%
	青葉	6,955	5.9%	6,940	6.1%	15	0.2%
	都筑	5,068	4.3%	4,835	4.3%	233	4.8%
	戸塚	8,660	7.4%	8,181	7.2%	479	5.9%
	栄	3,703	3.2%	3,587	3.2%	116	3.2%
	泉	4,563	3.9%	4,736	4.2%	△173	△3.7%
瀬谷	4,013	3.4%	3,886	3.4%	127	3.3%	
市外	30	0.0%	22	0.0%	8	36.4%	

6 月別救急出場件数

区分	令和5年		令和4年		前年比較	
	出場件数	構成比	出場件数	構成比	増△減	増減率
合計	116,999	100.0%	113,227	100.0%	3,772	3.3%
1月	22,108	18.9%	20,167	17.8%	1,941	9.6%
2月	17,519	15.0%	18,627	16.5%	△1,108	△5.9%
3月	18,272	15.6%	18,794	16.6%	△522	△2.8%
4月	18,122	15.5%	18,173	16.1%	△51	△0.3%
5月	19,969	17.1%	18,475	16.3%	1,494	8.1%
6月	21,009	18.0%	18,991	16.8%	2,018	10.6%

※全ての表の構成比は少数第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合があります。